

## 編集委員会企画

## 「事例報告」投稿論文作成のポイント

座長：谷口 好美<sup>1)</sup>演者：三重野英子<sup>2)</sup>，戸谷 幸佳<sup>3)</sup>，長畑 多代<sup>4)</sup>ゲスト演者：蘭 直美<sup>5)</sup>，阿部世史美<sup>2)</sup>

1) 金沢大学, 2) 大分大学, 3) 群馬県立県民健康科学大学, 4) 大阪公立大学, 5) 金沢医科大学

本学会では、老年看護学の発展には、老年看護実践を言語化し、事例の理解を深める事例報告が重要であるとし、2019年5月に投稿論文の種類に「事例報告」を加え、会員に投稿を呼び掛けてきました。2020年1月発行の老年看護学（第24巻第2号）には「事例報告を書くことへのチャレンジ（湯浅美千代著）」と認知症看護認定看護師による事例報告5題が掲載され、事例報告の意義とモデルとなる論文をお伝えしました。さらに、2022年1月発行の老年看護学（第26巻第2号）では「事例報告を書いてみよう！」という特集において「事例報告の学会誌掲載に向けた課題（湯浅美千代著）」、「事例報告を活用して老年看護実践の価値と知を共有しよう（諏訪さゆり著）」、「事例報告における倫理的配慮（會田信子著）」を掲載し、事例報告の執筆にむけた具体的なガイドを提供してきました。

事例報告の投稿・採択の推進にむけて、前期の編集委員会(2022年6月～2024年6月)において、「事例報告ワーキンググループ」を立ち上げ、ワーキングメンバーによる査読体制を組み、学術集会拡大編集委員会で論文作成のポイントを説明してきました。そうした中、事例報告を投稿いただくようになり、第28巻第1号から第29巻第1号までに5本の実例報告が掲載されました。

今回の編集委員会企画は、さらに事例報告の投稿を推進するために、臨床家、教育者を問わず、全会員を対象に事例報告の論文作成にむけたポイントをお伝えしたいと思います。

まず、三重野委員長より、本学会における事例報告の審査基準をあらためて確認するとともに事

例報告の投稿・採択の動向について解説します。次いで、戸谷委員より、事例報告の投稿に関する課題について、代議員および老人看護専門看護師を対象に行ったWeb調査の結果を報告します。そして、掲載された事例報告から、著者の貴重な体験をお伺いし、これから挑戦する人にメッセージをいただく機会をつくります。蘭氏には「在宅で生活する認知症高齢者の食べる意欲を大切にした多職種による食支援（第28巻第2号）」、阿部氏には「口腔がん切除再建手術を受けた後期高齢者の自宅退院後の生活を支える入院中の看護（第28巻第2号）」の投稿論文作成から査読の過程をとおしてどのような学びがあったのか、論文作成のポイントは何かをお話いただきます。最後に、長畑委員より、お二人の著者の意見もふまえ、事例報告の論文作成のポイントを説明します。今回は、この企画を広く会員に知っていただくために、学術集会当日の対面だけでなく、オンデマンド配信を行います。

先に日本看護協会は、認定看護師、専門看護師の審査方法を変更し、学会発表や論文投稿を重視することを公表しました。このタイミングで本企画を実施することで、認定看護師、専門看護師の方々や資格取得を目指しているの方々より、事例報告の積極的な投稿を期待しております。一般の看護師の方々には、心に残る事例を振り返り事例から学んだことを記述することへの後押しになればと思います。教育者には、学生・大学院生の事例報告の論述や投稿の指導の参考にしていただければ幸いです。